

## 現代社会の歩みと私たちの生活

—興味をもった内容をテーマに新聞発表を通して学習を深めよう!—

静岡県公立中学校教諭

### はじめに

この章は、歴史から公民分野へかわり、融合性も発展性もある学習内容となる。下の教科書の資料1にあるように第二次世界大戦後10年を経ると急激な成長から始まる現代社会を概観し、その特色に気づかせ、個人と社会のとの関わりについての見方や考え方の基礎を養うことをおもなねらいとしている。

公民学習をスタートして、歴史学習とのつながりをもたせ、興味・関心を高めて楽しいなかにも、意欲的な学習形態が図れるような工夫が重要である。そこで、つぎのような単元の流れを考案してみた。

### 2 時代をとらえる資料（導入）

導入部では、この時代を象徴する資料を紹介することで、興味をもたせたいと考えた。

資料1



「中学生の公民 初訂版」p.6

ロードショー公開された「ALWAYS 3 丁目の夕日」のDVDの一部を使って、日本の経済は、1950年代の後半から1970年代の前半にかけて、産業の中心が農業から工業へと転換し、高度経済成長とよばれる目覚ましい経済発展をとげるようすをつかませたい。とくに、街並みや家電製品、食生活といった視点に注目させたい。

次に、経済成長期以後からブル景気前期の時代背景としては、ドラマ化・映画化された「東京タワー」を活用する工夫を提案する。これは、現在の都市部のようにと近い部分があるため、利用する場面に十分考慮する必要があるが、工業発展を終え商業やサービス業が進展する時代を的確にとらえさせたい。また、視点を絞って、2つの作品を提示し比較することで、時代の成長・変化を見つけさせたい。

### 3 大戦後の歩み（展開）

この章での知識・理解の基礎学習として、歴史分野の終盤に学習した第二次世界大戦後の歩みについて、国際連合の成立、日本国憲法の公布、日米安全保障条約、冷戦の激化、東京オリンピック、東西ドイツの統一、ソ連崩壊などの既習事項を学習の基本としながら、年表資料を使った学習をすすめたい。

「第二次世界大戦後の歩み」のように①政

資料2



「中学生の公民 初訂版」p.4～5

地理  
歴史  
公民  
地図  
社会科

## 4 テーマをもとにした調査学習(課題追究)

治・経済、②社会・文化などの発展を参考にして、身のまわりのおもなできごとを家族から情報をえながら完成させる。

上記資料をもとに、大きく変化した私たちの生活の内容を指摘する。その指摘内容を、下の7つのテーマのようにまとめた。

- 資料3
- ② 食生活の変化
  - ③ 家電製品の普及
  - ④ 産業構造の変化
  - ⑤ 自然環境への影響
  - ⑥ 少子高齢社会の到来
  - ⑦ 貿易への高い依存度

このいずれかの内容について、自分なりに課題を決めて、追究型の学習を展開する。

生徒一人ひとりが、自ら学ぶ力を伸ばすための課題追究型の学習形態を取り入れた。その学習方法の手順を次のように行った。

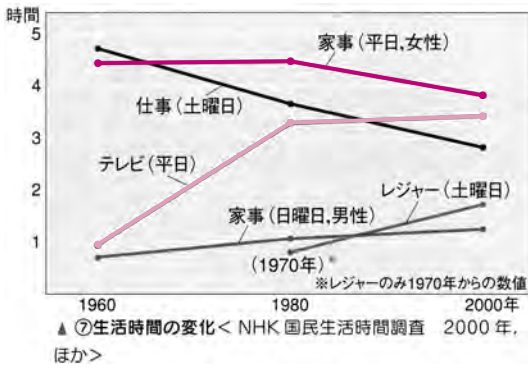
1. テーマを決めよう
2. 調べてみよう
3. 資料を読み取ろう
4. 公民新聞としてまとめてみよう
5. グループで発表しよう
6. 評価してレポートにまとめよう

手順に従って、その方法を下記のようにまとめた。

### (1) テーマを決めよう

7つのテーマを参考にして、自分で興味や疑問もったり追究したいと思ったりしたもの、たとえば、「進化を続ける洗濯機」、「テレビの普及率」、「食生活の変化と女性の社会進出」などのヒントを与え、テーマを考える時間を与える。

資料4

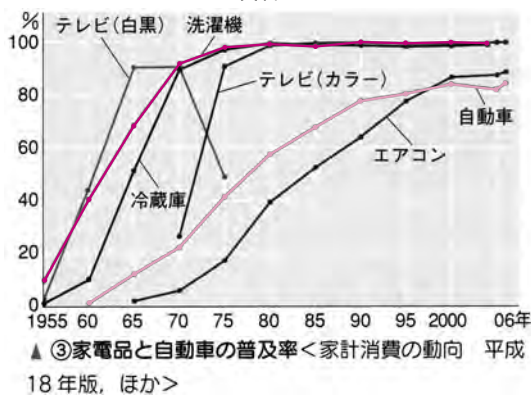


「中学生の公民 初訂版」p. 9

## (2) 調べてみよう

a 教科書、b 資料集、c 図書室(館)、d パソコン室(インターネット)、e 家族への聞き取り、その他、時間が確保できれば関連する企業等への電話取材、現地取材(企業、役所、博物館、資料館など)を利用すると豊富な資料が収集できる。

資料5



「中学生の公民 初訂版」p. 8

## (3) 資料を読み取ろう

### a 資料の数値の利用

ここでは、資料4・5などを利用し、グラフがどのように変化しているか、または、とくにいつ変化したか、その時、歴史的に何かあったのかと考えてみたりすることが大切である。あるいは、歴史で学んだ「戦

後の日本経済の歩み」と関連づけて、その資料の特徴を読みとることが重要である。

資料6

### ◇基礎知識「戦後の日本経済の歩み」

- ①高度経済成長(1950後半～1970前半)
- ②第一次石油危機(1973年)
- ③成長安定期
- ④第二次石油危機(1979年)
- ⑤バブル経済(1980年代後半～1991年)
- ⑥バブル崩壊(1991年～)

### b 資料の揭示

㊦資料(データをもとにした図表・地図・グラフなど)、㊧写真などから、自分が決めたテーマを象徴するデータを取り上げたり、同じ資料形態から、時代の比較を行いやすい資料例を選択したりする。また、疑問点をさらに調べたり、読み取れたりしたことを1つの仮説に結びつけたり関連づけてみるとよい。

### c 家族への聞き取り

せっかくの貴重な話であるが、提供してくれる人の経験と感想をしっかりと聞き分けることが大切である。

資料7 1950年代

### おじいさん・おばあさんに聞いた話

洗濯機がなかったころは、たらいと洗濯板だったよ。洗濯板というのは、溝がいくつも彫られた板で、それに、水と洗剤をつけた洗濯物をこすりつけて洗濯するんだよ。1家族分の洗濯をするのに、2時間もかかり、冬の寒い朝は、水が冷たくてとくにつらかったよ。

資料8 1970年代

### お父さん・お母さんに聞いた話

電気洗濯機が家に届いて使ったら、びっくりした。洗濯物と水、洗剤をいれてスイッチを入れれば、洗濯してくれるんだから助かるよ。今までは家事に追われていたけど、少し余裕ができて、自分の自由な時間がもてるようになったね。

これらの聞いた話と資料4・5の特徴を関連する内容を結びつけると、生の声が良い裏づけ資料となる。

d 戦後の歴史の流れと多面的に関連づけて考えよう

#### (4) 公民新聞としてまとめてみよう

##### ◇新聞作成のこつ

- ①記事のタイトルは、人の目をひくように大きく印象的に書く。
- ②記事は、ひとまとまりごとに段落を分けて、段落のはじまりは1字下げて書く。
- ③話題ごとに囲むとまとまりができ、見やすく読みやすい。
- ④地図、グラフ、写真などを入れると読み手にわかりやすく、イラストや漫画があると紙面が和む。
- ⑤白黒だけでは重要なことが伝わりにくいので、カラフルな色合いや、大まかな線を薄く入れると見た目に効果的である。
- ⑥裏面に、ニュースセッションの原稿を書いたものを添付しておく。

#### (5) グループで発表(ニュースセッション)しよう

##### ◇進行上のルール

- ①6人前後のグループを6グループ作成
- ②グループ内で発表の順番を決め、一人の発表時間は3分とする。

③司会者を一人決め、シナリオも用意する。

④発表3分 評価1分 助言2分

⑤必ず全員が発表し、役割を分担する。

※①～⑤などに留意して、的確に指示を与え自分が作成した新聞を使ったニュースセッションによる発表会を行う。

##### ◆発表のこつ

- ①発表形式になれていない集団では用意した原稿を十分活用して発表する。発表会のレベルがあがってきたり発表能力が優れている生徒の場合は、原稿を読まずに自分の言葉で発表する。
- ②大きな声でゆっくり、はっきりと。
- ③ポスターの見てほしいところには指示棒などを使ってわかりやすく。
- ④クイズなどを取り入れて聞く人にも参加してもらうのもよい
- ⑤実物やミニチュアを見せて紹介するのもよい。

##### ◆聞き方のこつ

- ①静かに集中して聞く。
- ②メモを取りながら聞く。
- ③質問は発表が終わってからにする。
- ④発表でわかったこと疑問に思ったことを最後にまとめる。

#### (6) 評価してレポートにまとめる

評価し合うことで、相手の発表の良さを認めることは、この歴史の流れにおける成長や歴史上の特徴をとらえることになり、もっとも深い学習内容を追究することになる。また、学習をさらに高めるために、この課題追究型の学習のまとめに各自なりの考えをレポートにまとめることで学習の成果としたい。